

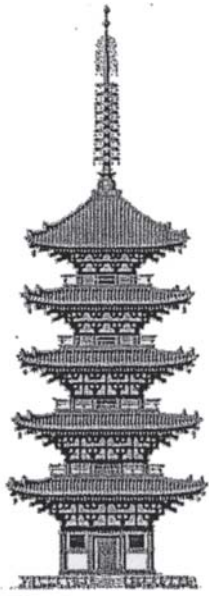
弘法さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org



皆さん、こんにちわ。早いものでもうすぐ師走。寒さも厳しくなりますのでくれぐれもご自愛ください。お釈迦様の生涯をお伝えしている今年のかわら版。今月は**第二結集(だいにきちじゅう)**です。

★**サンガの誕生**

「経」「律」「論」の「三蔵」がまとまり、仏教教団の基盤が確立。お釈迦様入滅時に数千人と言われた弟子の数も増え続け、**サンガ**が誕生しました。

サンガとは「集まり」というような意味のサンスクリット語。中国では**僧伽(そうぎゃ)**と表記。ここから最初の文字をとって「僧」という言葉も定着しました。お釈迦様入滅は**紀元前三八三年**。サンガは発展を続けましたが、約百年後、再び大きな転機が訪れます。**アショーカ王**が登場する**マウリヤ朝**の時代です。

★第二結集(だいにきちじゅう)

百年もたてば社会も大きく変化。仏教教団の規則、すなわち「律」にも時代にそぐわない面が出てきました。

「律」には十本の柱があり「十事」と呼ばれていました。これらに現実的な改革を行うかどうか、争点となったのです。

例えば「金銭の布施は受けてはならない」という「律」。貨幣経済が発展したために、修行僧が出家遊行するにしても、渡し船に乗るなど折々に多少の現金を持ち合わせるせていないと不便なこともあるという具合です。

そこで、**ヴァジジ国**の**ヴァイシヤリー**で**第二結集**が開かれました。

★根本分裂と枝末分裂

第二結集では「律」を緩和した**改革派**と「律」の維持強化を主張する**保守派**が対立。

改革派は貨幣経済が発達した商業都市の多い**北インド**が中心。一方、保守派は**インド中部**や**南インド**が中心。

インド中南部は**バラモン教**や**ジャイナ教**の勢力が強く、「律」を

強化することで仏教教団の結束を固めたいという背景もあったようです。

第二結集では保守派の主張が通り、それを不服とする改革派は**大衆部(だいじゅうぶ)**を結成。一方、保守派は**上座部(じょうざぶ)**を名乗り、ここに仏教教団は**根本分裂(こんぽんぶんれつ)**することになりました。

その後の数百年の間にさらに分裂を繰り返し、大衆部は**九**、上座部は**十二**に分かれます。これを**枝末分裂(しまつぶんれつ)**と言います。

「すべては移ろいゆく」というのがお釈迦様の教え。諸行無常の摂理に従い、それぞれが仏法を追求していったと考えるべきでしょう。以後数百年間は**部派仏教**の時代となりました。

★八大聖地

仏舎利塔やお釈迦様ゆかりの地は聖地として信仰の対象となりました。

生誕地**ルンビニー**、成道地**ブツダガヤ**、初転法輪地**サーナリト**、涅槃地**クシナガラ**が**四大聖地**。これに、霊鷲山(りょうじゆせん)のある**ラージャグリハ**、模範的都市としてお釈迦様が一目置いた**ヴァイシャリー**、祇園精舎の所在地**シュラヴァステイ**、降臨伝説のある**サンカーシャ**を加えると**八大聖地**。

その後、インドではヒンズー教やイスラム教が台頭し、十三世紀

頃には仏教が姿を消していきました。今日、インドにおける仏教とは国民の1%未満になっています。



八大聖地

★お釈迦様の教え

お釈迦様の生涯をお伝えしてきた今年のかわら版。最終回の来月は**お釈迦様の教え**をお伝えします。乞うご期待。

第5回・弘法さんを語る会

—お釈迦様の生涯と般若心経—

12月23日(水) 午後1時~3時 (受付は午後0時半から)

場所 **専修院** (日泰寺西側)

講師 **大塚耕平**

(かわら版執筆者、早稲田大学客員教授)

定員 **50名(参加無料)**

申込先 **大塚耕平事務所** 担当 **浅井**

